



SAP Ariba 

機能の概要

すべての明細の詳細を含むオーダー確認の送信を統合サプライヤに許可

Franz Uhr, SAP Ariba

一般提供予定: 2019 年第 2 四半期

CONFIDENTIAL

機能の概要

実装の難易度  やや複雑
関連する地域  グローバル

新機能: すべての明細の詳細を含むオーダー確認の送信を統合サプライヤに許可

お客様の課題

既存の「拡張オーダー確認統合機能」は、ホストサプライヤと統合サプライヤの両方に対して、オーダー確認 (OC) にすべての明細の詳細を含めることを必須とする目的で実装されました。また、お客様にとっては、この機能により、注文書の依頼された配達日が OC cXML の配達予定日の初期値として設定される (サプライヤが OC の作成時に配達予定日を入力しなかった場合) という利点がありました。しかし、このようなお客様はすべての明細の詳細を必要としていなかったため、関連する統合サプライヤ検証はこの機能から削除されました。それでも、一部のお客様は、統合サプライヤのオーダー確認で、すべての明細の詳細に照らして検証を行う必要がありました。

SAP Ariba でこの課題に対応

この機能により、新しく「ホストサプライヤおよび統合サプライヤ向けに機能強化されたオーダー確認統合」が実装されます。この機能を有効にしている場合、統合サプライヤはオーダー確認 cXML に明細情報を含める必要があります。

実現される主なメリット

お客様は、統合サプライヤから送信されるオーダー確認に明細の詳細を含めることを必須とすることができるようになります。これは、オーダー確認 cXML 内の不足している情報を ERP の注文書から取得するために、ERP に対して RFC 呼び出しを行うのを防ぐことを目的としています。この結果、お客様は統合サプライヤによって確認されたオーダーのバージョンを把握することができます。この機能により、プロセス効率が向上し、コンプライアンスが確保されます。

ソリューション領域

Ariba Network

実装に関する情報

この機能を有効にするには、貴社の指定のサポート担当 (DSC) に連絡してサービスリクエスト (SR) を提出してください。

前提条件および制限事項

SAP Ariba カスタマサポートがバイヤーに代わって新しい「ホストサプライヤおよび統合サプライヤ向けに機能強化されたオーダー確認統合」を有効化する必要があります。

この機能では、注文書の [依頼された配達日] フィールドが空である場合、オーダー確認 cXML の [配達予定日] フィールドに、[依頼された配達日] フィールドの値が自動的に入力されないことに留意してください。

機能の概要

新機能: すべての明細の詳細を含むオーダー確認の送信を統合サプライヤに許可

詳細な機能情報

既存の「拡張オーダー確認統合機能」には、以下の機能が含まれています。

1. ホストサプライヤがすべての明細の詳細を含む OC cXML を生成します。すべての明細の詳細が OC で提供されていない場合、確認されている注文書からその詳細が取得されます（ホストサプライヤ向けの allDetail ソリューション）。
2. （OC cXML と UI で）OC の配達予定日の初期値は、ホストサプライヤの注文書の「依頼された配達日」から取得されます。
3. ホストサプライヤと統合サプライヤは、未確認の明細に対してコメントを入力することはできません（この情報はバックエンドで処理されないため）。

元の機能（「拡張オーダー確認統合機能」）では、オーダー確認の詳細の UI の「配達予定日」の初期値として、依頼された配達日が設定されます。この初期値設定は、サプライヤがオーダー確認の作成時にこの値を入力しなかった場合に、OC cXML を生成する際に行われます。

この動作（配達日の初期値設定）は、新しい「ホストサプライヤおよび統合サプライヤ向けに機能強化されたオーダー確認統合」では行われません。